

平成28年度 木の実幼稚園 自己評価結果公表シート

学校法人 今川学園 理事長
木の実幼稚園 園長 今川公平

○本園の教育目標

1. 生活指導上の基本目標
 - ・ あいさつが出来る ・ 感謝の気持ちが持てる ・ けじめがつけられる ・ 自分のことは自分で出来る
 - ・ 友達のことを思いやる事が出来る
2. 表現活動を通して、豊かな「感性」と「心」を育てる。
 - 造形、音楽、言葉による表現活動を通して、感じたことを素直に表現し、喜ぶ心を育てる。
3. 自分で考え、行動できる子どもを育てる。
 - いろいろな事柄、事象に興味を持ち、「何故」「どうして」「どうなるだろう」と考えられる力を育てる。
4. 友達と積極的に遊び、いろいろな遊びの工夫ができる子に育てる。
5. いろいろな遊びを通して、健康な心身を育てる。

A、本年度達成することが必要と思われる評価項目

項目	内容
1	大型遊具導入の検討委員会の立ち上げと設置工事実施
2	園舎リフレッシュ工事、バス乗車場所整備、日よけテント等設置工事実施
3	東側大園庭、中央園庭の土質改良実施
4	運動会、音楽発表会等のプログラム内容の見直し
5	主事、保育アドバイザー等新規職務の導入
6	教員の保育実践についてのプレゼンテーション能力向上

B. 評価項目の設定理由

項目	内容
1	大運動場にある大型遊具、ツリーハウス、砂場は設置後10年から15年以上経過し、老朽化が著しい。特にツリーハウスは放置すれば危険な状態になることが予想され、出来るだけ早く対応する必要がある。また、遊具や砂場がそれぞれ異なる時代に作られたため、遊具の統一性がなく、遊び場としてのコンセプトが明確でない状態である。
2	新築であった園舎も建築後4年目となり、木造棟、および鉄骨園舎の木質部分の痛みが目立ち始めた。また、送迎バスの乗降場所のフェンスも簡易なものを使用していたため、より安全性の高いものが必要である。さらに徒歩通園の保護者の自転車の乗降場所として使用しているテントも老朽化しており、対応が望まれる。
3	従来から使用している東側園庭、中央園庭の土質がここ数年目立って劣化しており、砂埃が立ちやすく、全体に白化が進んでいる。砂埃が立たず、潤いのある土質に入れ替える必要がある。
4	運動会、音楽発表会とも、子供目線から毎年見直しと改善を進めてきているが、運動会では年長組の組み立て体操を筆頭に、全学年のいわゆる「表現遊び」と、音楽会でも全学年通じての合奏の内容と、普段のプロジェクト型の保育内容との関係性が不十分である。
5	従来までの学年主任や教務主任、総主任だけではなく、学校法人を含めた総務的な仕事を担うポジションと、経験の浅い教員への指導やアドバイスを担うポジションが、一般教員が教育・保育に集中する為にも必要である。
6	従来から、園内研修会に於いて、自分のクラスで取り組んだプロジェクト型保育の発表を、経験年数のある教員から行ってきたが、若手教員にその機会が少なかった為、保護者や外部に対しても発表する機会を積極的に作っていく事が、何より自身の指導力向上の意味で必要である。

C. 評価項目ごとの具体的目標と取り組み方

項目	内容
1	<p>既成の遊具を安易に導入するのではなく、今の木の実の子供たちにどういう運動や遊具が必要なのかという事を明確にし、それに沿った遊具のデザインを園長・教員一体になって考えていこうという事で、検討委員会を立ち上げる。デザイン案を明確にしたうえでメーカーと協議を重ね、より詳細を詰めていく。具体的には「安全性」「木製」「回遊性」「樹木を取り込む」を基本にしたオリジナルの遊具にしていきたい。8月地蔵盆までの設置完了を目指す。</p>
2	<p>木造棟2棟全体、鉄骨棟の木質部分すべてを塗りなおす。送迎バス乗降場所フェンスは、新しい大型遊具とデザインの共通性を考え、安全な木製フェンスに変える。徒歩通園の方用のテントはロール型のテントを東棟横に設置することで対応する。 工期は、塗装の乾燥を考慮し、夏休み中、8月地蔵盆までに実施する。</p>
3	<p>新しい土は保水性に優れ、きめ細かいものとし、安全性を最優先に選定する。第一期工事は夏休み中に中央園庭(職員室棟前)で実施する。古い土を8センチから10センチ除去し、そこに新しい土を入れ、整地する。第二期工事は東側園庭で運動会明けの連休を使って行う計画である。</p>
4	<p>各学年で、子供の興味・関心を軸としたクラスごとのプロジェクト型の保育の内容と、運動会や音楽会でのプログラムとのつながりや関係を意識した新しい取り組みはどこまで可能か、議論、研究する。基本は子供側に立った発想であり、理解である。さらに新しい取り組みでの子供の経験が何を育てるものになるのか、外部講師の意見も参考にしながら、徹底的に議論していく。議論、検討を重ねた内容は、保護者理解を進めながら勇気をもって実行に移したい。</p>
5	<p>施設管理や総務的な発想で教職員を指導し、園長を補佐する「主事」のポストを新設する。また退職したベテラン教員の中から「保育アドバイザー」(非常勤)を選任し、若手教員の指導を通じて、教育内容のより一層の充実を図りたい。</p>
6	<p>11月3日に大阪府私立幼稚園連盟の公開保育を実施し、若手・中堅教員に実践発表する機会を提供する。また11月に3回、同志社女子大学でもベテラン教員を主体に実践発表する予定であり、2月の造形展でも昨年と同様に実践発表を行い、積極的にプレゼンテーションの機会を作り、教育の「公開性」「説明責任」を高めていく計画である。</p>

◎以上の本年度の取り組みについての最終評価は28年度末、29年3月に実施する。